

追悼

## 加藤邦男 前理事長を偲ぶ

本協会前理事長 加藤邦男氏（享年八十三歳）は、平成三十一年三月三十一日ご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



平成から令和に時代が変わった今年5月初旬、奥様から突然お手紙をいただき、加藤前理事長がご逝去されたことを協会関係者一同はじめて知りました。ほんの親しい方のみにお知らせになり、ご家族ご親族のみでお送りされたと聞きました。透析治療等の体調不良から理事長の職を退かれた後、一度、ご自宅にお見舞い申し上げ、いろいろなお礼やご報告を、と思っておりましたが、今やそれも実現できず、痛恨の極みです。

加藤先生は、1964年に京都大学助手となり、講師、助教授を経て1990年に教授就任、1999年の定年まで教鞭を取られ、京都大学名誉教授の称号を授与されました。本協会では1985年に理事、2006年に常務理事、2010年から2017年まで理事長を務められました。

建築学分野では、近代フランスの詩人ポール・ヴァレリーやル・コルビュジエに関する建築論研究の第一人者であり、1984年度日本建築学会賞（論文）を受賞されました。それは森田慶一、増田友也から続く建築論の流れを継承するものでした。また、ノルウェーの建築論研究者クリスチャン・ノルバルク＝シュルツの一連の著作の翻訳も多く手掛けられ、自らも場所論を展開されました。実作としては、舞鶴市引揚記念館を始めとする舞鶴市の一連の施設や積水化学工業京都技術センター等を設計され、理論と実践の両面で多大なる業績を残されました。また、関西日仏交流会館（ヴィラ九条山）の設計のみならず、学生交換等を含めた日仏交流にも尽力され、フランス政府から1989年には芸術文化勲章（シュヴァリエ）、2016年には国家功労勲章（オフィシエ）を授与されました。

私は、大学の西洋建築史の講義に始まり、ゼミ、大学院、前職の教員時代と、長きに渡ってご縁をいただきました。本協会にお世話になったのも「これからあと一踏ん張り新しいことを頑張ってみませんか。」と、先生から直接お声掛けいただいたからです。その時に従事した新築の北野天満宮文道会館も無事竣工しましたが、その完成形を先生にご報告することができなかったことが残念でなりません。

これまでのすべての教えに感謝申し上げ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

副主任研究員 細谷 豪